

2018年度 大学院言語文化研究科附属言語文化研究所事業一覧

I. 研究部事業

①研究員による基礎研究

1. 鈴木健司（文学部教授）

「宮沢賢治作品における他界観の研究」

②研究員による共同研究

研究題目 「KIZUNA—言葉と文化の力— (Renewing bonds through languages.)」

代表者 日沖 敦子 文学部専任講師

分担者 蔣 垂東 文学部教授

グラハム 児夢 文学部准教授

長谷川 清 文学部教授

ラメイ・アレック 文学部専任講師

鷺麗美知 ゴラナ 文学部教授

糸井 江美 文学部教授

于 日平 中国・北京外国語大学教授

邵 建国 中国・北京外国語大学教授

盧 曉晴 中国・北京外国語大学博士課程

孫 潔 中国・雲南民族大学講師

劉 琳琳 中国・北京大学准教授

稲垣 泰一 元・文教大学教授

尹 松 中国・華東師範大学准教授

金 華 中国・華南理工大学准教授

周 文匯 中国・北京師範大学珠海分校兼任副教授

宋 洙珍 韓国・仁荷大学兼任講師

陳 茗 中国・厦門理工学院副教授

柯 愛霞 文教大学大学院博士後期課程

③研究例会

第1回 2018年6月27日(水)

発表題目 「シェイクスピアが描く恋に猪突猛進する娘たち」

発表者 土井 雅之(文学部准教授)

④紀要発行

2019年3月16日発行『言語と文化』31号

⑤2017年度研究員による基礎研究の報告

研究題目 「Learning L2 vocabulary from context : Myths and reality」

研究者 鷺麗美知 ゴラナ(文学部准教授)

研究題目 「創成期におけるテレビコンテンツについての研究」

研究者 竹林 紀雄(情報学部准教授)

⑥2017年度研究員による共同研究の報告

研究題目 「グローバルに生きる : Living Globally」

代表者 日沖 敦子(文学部専任講師)

分担者 蔣 垂東(文学部教授)

グラハム 兎夢(文学部准教授)

加納 陸人（文学部教授）
三枝 優子（文学部）
鈴木 健司（文学部教授）
鈴木 誠（経営学部准教授）
竹林 紀雄（情報学部准教授）
長谷川 清（文学部教授）
山川 智子（文学部准教授）
ラメイ・アレック（文学部専任講師）
鷺麗美知 ゴラナ（文学部准教授）
渡辺 敦子（文学部准教授）
大瀧 幸子（本学非常勤講師）
磯部 美里（愛知大学非常勤講師）
クレッグ・ジョンストン（法政大学非常勤講師）
于 日平（中国・北京外国語大学教授）
金 華（中国・中国華南理工大学准教授）
サベル・モガッダム（イラン・元テヘラン大学）
徐 滔（中国・北京外国語大学准教授）
孫 潔（中国・雲南民族大学講師）
宋 洙珍（韓国・仁荷大学兼任講師）
斉 海娟（中国・東北大学校講師）
高宮 優実（米・アラバマ大学准教授）
劉 琳琳（中国・北京大学准教授）

平成29年度の共同研究は、「グローバルに生きる：Living Globally」というテーマをもとに、各分野から研究された。それぞれの研究成果は、研究会や紀要『言語と文化』30号（創立30周年記念号）にて発表された。

【紀要】

[研究論文]

- 1) 「接続助詞による言いさし表現の分類について」金 瑋婷
- 2) 「日本語教育実習に対する日本語学習者の評価」三枝 優子
- 3) 「宮沢賢治作品のペルシャ語訳における諸課題」
アスイエ・サベル・モガッダム, 鈴木 健司
- 4) 「非物質文化遺産としての食の観光化に関する一考察
—中国雲南省昆明市の「官渡餌塊」を事例に—」孫 潔
- 5) 「同時通訳における実例分析から見る図式構築
—プロの通訳者と学生の相違から—」張 晶
- 6) 「不完全否定を表す副詞の日中対照研究」陳 澤佳
- 7) 「大学生の学習観についての特徴
—質的研究におけるトライアングレーションの試み—」
二ノ神 正路, 奴田原 諭, 鈴木 賢男
- 8) 「小劇場崑曲「一旦三夢」の試み」舟部 淑子
- 9) 「宗教間対話における「無宗教」行動の位置づけ」
ラメイ・アレック
- 10) 「文脈からL2語彙を学ぶ：虚構と現実」鷲麗美知 ゴラナ

[研究ノート]

- 1) 「グローバリゼーションと資源に関する国際取引」
クレッグ・ジョンストン
- 2) 「文化のグローバル化と祝祭イベントの変容
—昆明国際文化旅游狂歡節の事例から—」長谷川 清

【研究例会】

- 1) 盧 暁晴：「中国語の結果複合動詞の意味と構造に関する一考察
—日本語の複合動詞との対照の視点から」
- 2) 馮 曉慶：「中国大陸における偽満州国に関する研究について
—2000年 - 2016年」

研究部より

日沖 敦子

今年度も大学院付属の研究所として先生方や院生により充実した研究の場を提供させていただけるよう一年努めてまいりました。蔣垂東所長、松崎智美氏（言語文化研究所）らのお力添えあって、当初の計画通り、研究活動を無事に終えることができ、感謝しております。

今年度は、共同研究のテーマ「KIZUNA - 言葉と文化の力 -」を基に、各分野（日本文学、日本語教育、英語教育、中国語学、社会学など）から研究が進められました。言葉と文化がかような力を持ち、どのようなKIZUNAを生み出すのか、或は、どのようなKIZUNAを生み出すことができるのか、多様な視点から、それぞれの研究が遂行され、今年度の紀要にも興味深い論文が多数寄せられました。

研究部では、毎年研究定例会を開催しております。詳細は、前述の活動報告にある通りです。今年度は6月に土井雅之先生（文学部准教授）に「シェイクスピアが描く恋に猪突猛進する娘たち」という演題でお話いただきました。参加者からの質疑も多く、大変充実した例会となりました。ありがとうございました。

また、夏季公開講座では、英語教育、日本語教育、中国語教育、書写書道教育の四部門のほか、今年度は特別企画として、ヨーロッパの言語と文化教育夏期講座が開かれ、ドイツとフランスの言語と文化に触れる

絶好の機会となりました。また、異文化体験講演会では、于日平先生（北京外国語大学教授）、Daniela Stabile先生（ヨークグローバルビジネスアカデミー専門学校講師）にご講演いただき、大変有意義なひとときとなりました。

このような充実した研究活動を遂行できるのも、共同研究および基礎研究にご参加くださった先生方、御論文をお寄せくださった先生方、例会、公開講座、講演会でお話くださった先生方、会に参加された皆さまのご協力あつてのことです。心より感謝申し上げます。

今後とも言語文化研究所へのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

II. 研修部事業

①夏期公開講座報告

（1）英語教育夏期講座

—英語教育の新しい試み—

対象：中学校・高等学校英語科教員または教員志望者。

埼玉県内在住または在勤の方。

目的：英語教育についての理解を深める。

期日：平成30年8月3日（金）

会場：文教大学越谷校舎3号館（3401R）

参加者：33名

講義・発表内容

講義①「フォニックスに頼りすぎない音声教育」

小田 節子（金城学院大学）

英語教育における音声教育は大変重要なはずですが、案外と見落とされがちです。初期段階の音声、発音指導は、その後の

英語学習に大きな影響を与えますから、指導者の責任は重大です。近年、音声指導として「フォニックス」を導入する動きがあります。フォニックスの知識は有益なものですが、発音指導と結びつけ過ぎると失敗します。フォニックスへの理解を深め、発音教育に結びつける方法を考えましょう。

講義②「Producing questions is very hard. Really?

(「質問文を考えるのは難しい。本当?」)

Simon Evans (国際基督教大学)

Asking questions is an essential language skill. Really? Yes. Really.

Asking questions is also extremely important in developing (critical) thinking skills. Why? Because...

However, forming questions is very complex. I know. So?

So, students need lots of practice.

We'll look at a technique I've used in a Japanese high school.

Junior or senior? Senior. But JHS would be fine too. You can adapt the materials very easily. I don't understand. You'll see.

And, you'll have plenty of opportunities to try the technique in the workshop and maybe make some materials for your next class. You think so? Definitely.

講義③「英語テスト結果の視覚化」(3502教室)

伊藤 隆 (文教大学)

本講座は、英語テストの結果を視覚的に把握するための技術を学ぶワークショップです。定期テストや小テストの実施後に、

点数を入力した表を眺めるだけでなく、それをヒストグラム・散布図・箱ひげ図などにすれば、結果についての理解はより深まります。作図には、フリーウェアのRがインストールされたWindowsパソコンを使います。Rを初めて使う方を想定し、ご自宅のパソコンへのダウンロードの方法から話を始めます。

英語教育夏期講座

(2) 日本語教育夏期講座

—日本語教育の歴史を振り返る（中世編）—

対象：日本語教育に携わっている方、または日本語教育に関心のある方。

埼玉県内在住または在勤の方。

目的：日本語教育についての理解を深める。

期日：平成30年8月3日（金）

会場：文教大学越谷校舎3号館（3301R）

参加者：18名

講義・発表内容

講義①「15, 16世紀の中国資料から見る日本語教育」

蔣 垂東（文教大学）

中国における日本語教育の歴史は15～16世紀に遡ることができます。中国資料と呼ばれる日本語史の研究資料の中に最古の

日本語教科書『日本館訳語』が含まれています。この講座では、日本語教育史の立場に立って、当時の政府機関が編集した『日本館訳語』を紐解きつつ、当時の日本語教育がどのような形で展開されていたか、時代背景、教育制度、教科書の形態、学習内容などの観点から考察します。

講義②「韓国における日本語教育史」

権 景愛（韓国外国語大学校）

韓国の歴史の中で外国語教育は通・翻訳を担当する訳官を養成することに目的がありました。そのうち日本語は、中国語、モンゴル語、満州語と共に最も重要な「訳学」の一つとして教えられてきました。訳学のための教科書は一般に「訳学書」と呼ばれます。本講座では日本語教育のための訳学書の中でハンゲルで書かれたものを中心に幾つかを紹介します。当時の朝鮮の人々の目に映った日本はどのような国であったか、また、日本語や日本語教育の様相は現代のそれとどのように異なっていたかについて考えてみる機会となればと思います。

講義③「中世キリシタン資料から見る日本語教育」

宮武 利江（文教大学）

16世紀に日本にキリスト教が伝来したことは広く知られているが、ポルトガル人を中心とした宣教師たちがキリスト教の教えを日本人に伝えるため、日本語の習得に努めたことがわかる文献については、日本語史の分野以外ではあまり取り上げられないように思う。今回の講義では、これら「キリシタン資料」と呼ばれる文献をいくつか紹介しながら、16世紀末の

日本語の状況と、それをヨーロッパ人がどのように学習・理解し、後続の宣教師たちに伝授しようとしていたのか、日本語教育の立場から分析してみたい。

日本語教育夏期講座

(3) 中国語教育夏期講座

—中国語学習の新しい視点—

対象：中国語教育に携わっている方、又は中国語学習者。

埼玉県内在住または在勤の方。

目的：中国語教育・学習についての理解を深める。

期日：平成30年8月3日（金）

会場：文教大学越谷校舎 3号館（3501R）

参加者：34名

講義・発表内容

講義①「漢字の意味」

徐 瓊（北京外国語大学）

ご存知のように、文字の分類に表音と表意があります。一つの文字で音素または音節を表すのは表音文字で、文字の一つ一つに意味があるのは表意文字です。漢字は表意文字の代表で、漢字それぞれにちゃんと意味があるところはその魅力の一つです。本講義では、漢字または漢字からなる熟語の意味をみなさ

んと一緒に考えて、漢字の面白さを再発見したいと思います。

講義②「高校の中国語の授業を体験してみようⅡ」

星野 勝樹（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）

あまり知られていないかもしれませんが、埼玉県内でも英語以外の外国語の授業が行われている高校がいくつかあります。昨年は、実際に高校で行われている中国語の授業を体験していただきました。今回はその続編です。中国語は、自分で音にするのが楽しい言語です。今回は、漢詩の音読などを中心に、簡単な中国語文法や、中国語、中国に関する小話などを交えて進める予定です。基本的な内容から始めます。もちろん、今年度初参加の方も大歓迎です。

講義③「現代中国語における日本語からの借用語について」

王 岩（城西国際大学/中国東北大学）

日本語には古代中国語からの借用語が多く見られますが、実は、中国語の中にも日本語からの借用語が数多く存在します。19世紀末に、科学技術の専門用語を中心とする日本語が大量に中国語に移入され、中国における近代科学技術の理解に大きな役割を果たすこととなりました。また、グローバル化の進展に伴い、日本語に由来する多くの新語が中国語に伝わってきています。本講義では、実例を取り上げながら、日中語彙交流史の一端を理解してもらいたいと思います。

中国語教育夏期講座

(4) 書写書道教育夏期講座

対象：小中学校国語（書写）、高等学校書道担当教員。

書道愛好者。埼玉県内在住または在勤の方など。

目的：書写書道教育についての理解を深める。

作品制作を通じて、書の表現力を高める。

期日：平成30年8月3日（金）、4日（土）

会場：文教大学越谷校舎4号館（422R・426R）

参加者：37名

講義・発表内容

A（書文化）コース 426R

講義① 創作（1）・創作の手順

講義② 創作（2）・漢字の書を中心に作品の構想を練る

講義③ 創作（3）・構想をもとに試書する

講義④⑤創作（4）・小品（半切以下）を仕上げる

講義⑥ 講義 ・書の鑑賞の態度

講師：吉沢 義和（元文教大学文学部教授）

書作品の創作と鑑賞について学びます。書作品制作の過程・手順を学び、漢字を素材とした創作に取り組みます。受講者によって書道経験はそれぞれですが、創作のための基礎から学び、小品作品を仕上げてみましょう。また、制作した作品を

通して、作品の鑑賞方法についても学びます。

B（書文化）コース 422R

講義①学習指導要領概説（小中高）

講義②実技（1）・基本的な用筆法・運筆法

講義③実技（2）・漢字（楷書）

講義④実技（3）・漢字（行書）

講義⑤実技（4）・平仮名・片仮名・漢字仮名交じりの書

講義⑥実技（5）・その他（草書・隸書・篆書・仮名など）

講師：豊口 和士（文教大学）

小・中学校国語科書写、高等学校芸術科書道の指導に必要な知識・技能について、基礎基本となる事項について学びます。技能面では、基本的な用筆法・運筆法から始め、書写および書道の学習領域全般について幅広く確認していきます。また、小中高学習指導要領のポイントを概説します。

書写書道教育夏期講座

（5）（特別企画）ヨーロッパの言語と文化教育夏期講座

— 独・仏の言語と文化に触れてみませんか —

対象：ヨーロッパ語の言語と文化に関心のある方。

埼玉県内在住または在勤の方。

目的：ヨーロッパの言語文化についての理解を深める。

期日：平成30年8月3日（金）

会場：文教大学越谷校舎3号館（3307R）

参加者：10名

講義・発表内容

講義①「ドイツ語圏の言語と文化

ードイツ語の授業をのぞいてみよう」

山川 智子（文教大学）

ドイツ語の挨拶表現や数字を練習しながら、アルファベットの読み方や発音のルールを学び、日常生活でよく使う表現を使って参加者同士で交流したいと思います。また、ドイツ語圏の言語文化や日独関係について、社会情勢、歴史、環境、音楽、食文化等の話題を交えつつ、知識を深めていきましょう。

講義②「Bonjour ! Ça va? An Introduction to French」

フランス語入門：『こんにちは！お元気ですか？』

グラヅィアニ・ジャン・フランソワ（文教大学）

This class is a 90 minutes introduction to the French language in simple English. Using similarities between French and English, we will start by learning the French alphabet and basic rules of pronunciation. We will then practice with the famous French chanson “Les Champs-Élysées”. It’s a nice, cheerful song, available in all Karaoke boxes in Japan. After that, we will learn greetings in French like bonjour and how to introduce yourself.

講義③「ドイツ語圏の成立」

梶谷 雄二（文教大学・兼）

昨年の講座では、世界遺産の映像を見ながらドイツの歴史を中世の終わりまで追いかけてきましたが、今年はその続きとして、ドイツ語圏がオーストリア、スイスへと分かれていく歴史を、また、世界遺産の映像を中心にしながら、19世紀後半まで追いかけていこうと思っています。

ヨーロッパの言語と文化教育夏期講座

②異文化体験講演会

【第1回】

期 日：平成30年12月19日（水）16：20～17：50

講演者：于 日平先生（北京外国語大学教授）

演 題：「大学専門外国語教学指導委員会と中国の大学日本語教育」

概 要：2018年11月11日に、新しい「2018-2022」年度の中国教育部大学専攻教学指導委員会が正式に発足した。それを受けて、12月15日に外国語専攻教学委員会及び日本語専攻分委員会が北京外国語大学で全体会議を開き総括報告と仕事方針を採択した。今後の四年間で、主に日本語専攻教育の特徴を生かして、いかに【外国語力+専門知識力 α 】型人材を育てていくのかを中心に

して、人材育成目標を始め、教育カリキュラムや教育内容など、あらゆる面で改革をしていくことになる。

第1回 異文化体験講演会

【第2回】

期 日：平成31年1月23日（水）16：20～17：50

講演者：Daniela Stabile先生（ヨークグローバルビジネスアカデミー専門学校講師）

演 題：「五感で体験する異文化理解」

概 要：人類が昔から移動を重ねて進化してきたように、「移動」は人間の一部分である。旅行したり、新しい経験や発見をすることで、人間自身を変化させる。

この講演では、イタリア人女性の直接の経験と、五感を通して人々のあり方を発見する旅の話の話を聞くことができる。

第2回 異文化体験講演会

研修部より

グラハム 児夢

平成30年8月3日から4日の2日間、暑い中、多くの方々のご協力を頂きながら例年通りに文教大学大学院付属言語文化研究所の夏期講座を行いました。今年度も書道の人気コースが二種類に分けられ、元文教大学文学部教授吉沢義和先生がAコースとして書道の創作における手順や構想と鑑賞方法の基礎を伝え、Bコースは本学文学部の豊口和士先生が書文化学習指導要領概説を行いました。書写書道教育夏期講座受講者は37名でした。

3号館を会場にした語学関係4部門の講座には95名が受講しました。今回、日本語教育講座の講演者たちは歴史的な展望をハイライトしました。本校の蔣垂東先生は「15, 16世紀の中国資料から見る日本語教育」というテーマでもっとも古い日本語の教科書について講演しました。次に、韓国外国語大学の権景愛先生は朝鮮の「訳学者」のハングル文字の世界をとおして日本人像を探ってみました。最後に文学部の宮武利江学部長は「中世キリシタン資料から見る日本語教育」という講義の中で16世紀のポルトガルなどの欧州の国から来日した宣教師が如何に日本語を身につけたか、どういう教材を使ったか、という広く知られざるテーマに触れました。受講者は18名。

中国語教育講座は34名で、相変わらず人気が高い講座です。北京外国語大学の徐瓊先生は漢字の仕組みとその魅力への「再発見」に誘いました。埼玉県立伊奈学園総合高等学校の星野勝樹先生は前回の「高校の中国語の授業を体験してみよう」というテーマの続編で講演しました。第三講演者は城西国際大学の王岩先生でした。王先生のトピックは「一衣帯水」という存在が顕著である和製漢語。「現代中国語における日本語からの借用語について」というテーマの話の中に日中語彙交流史の深さ

が痛感されました。

英語教育の講演会受講者人数は33名、昨年より2名多い。最初の講演者は金城学院大学の小田節子先生でした。テーマは日本の英語教育においたフォニックスに「頼りすぎ」という興味深い問題。指導者はあまり大きくフォニックスに重視すると英語学の初心者は戸惑うのではないかと生き生きと講義しました。その後、国際基督教大学のサイモン・エヴァンズ先生が疑問作りの基本とその批判的思考法との繋がりを説明しながら、受講者が体を動かしながら講義で習得した新しいスキルを試しました。最後、受講者はコンピューター室に移動し、本校の英米語英米文学科の伊藤隆先生によるコンピューターを使用した、応用法の実践的な講義を受講しました。如何にテストスコアなどの授業データをビジュアルな形式にするかという内容が先生によって優しく伝えられ、機械の弱い人でも自信を持つことができたのではないかと思います。

外国語講座の講義はかなり異なりました。本校の外国語学科の山川智子先生の講演テーマは「ドイツ語圏の言語と文化—ドイツ語の授業をのぞいてみよう」という内容で、ドイツ語の挨拶などの豆知識から多面的にドイツの文化や社会の特徴が伺えるということ。次に同じ学科所属のジャン・フランソワ・グラツィアニ先生は「Bonjour ! Ça va? An Introduction to French」というタイトルでフランス語入門講座を開きました。フランス語と馴染みのある英語との共通性にフォーカスを当て、カラオケボックスに必ずあると言えるレ・シャンゼリゼのフランス語歌詞を紹介しました。最後、梶谷雄二先生がドイツ語圏の近代史を踏まえながら、映像をとおし、その世界遺産を紹介しました。昨年の講座の続編でした。受講者は10名。

2018年の異文化体験講演会は二回に行われました。12月19日（水）16：20～17：50に予定された第1回講演会の講演者は北京外国語大学

教授の于日平先生でした。テーマは「大学専門外国語教学指導委員会と中国の大学日本語教育」でした。内容は改革解放に伴う日本語教育の役割と今後の行方に関する話でした。

第2回目の講演会は1月23日（水）16：20～17：50に行われました。「五感で体験する異文化理解」という題名でした。講演者はイタリア出身ヨークグローバルビジネスアカデミー専門学校講師Daniela Stabile先生。イタリアと日本の相違点について熱心に語りました。出席者数は、それぞれは10名と11名でした。

上記の予定を組むことは多数のキャンパスイベントや会議や年末業事と同時進行にならざるを得ないようで、今後、最大限に生かすため検討致します。